



タンジェリン Tangerine社への出資について

2020年3月26日

MS & ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（社長：金杉恭三）は、2020年3月に東南アジアを中心にモビリティ領域で独自のAI事業を展開しているスタートアップ企業、Tangerine Innovation Holding Inc.（以下「Tangerine社」）に300万USドル（約3.24億円）の出資を実施しました。

1. 背景・本出資の目的

昨今、自動車事故時の証拠映像の確保などを目的としてドライブレコーダーの装着率が高まっています。

ドライブレコーダーの中には、通信機能が付いており、急ブレーキ等を検知した時の映像を保険会社等のサーバーに送信するものがあります。

お客さまサービスの向上や事務の迅速化を図るためには、受信した映像の中から事故に関するものだけを素早く検知し、迅速かつ能動的な事故処理をすることが必要であり、そのためにはAIの活用が必須と考えています。さらに今後、事故時の映像等をAIで分析することによる安全・安心に関するサービスへの期待がグローバルに拡大することが想定されます。

そこで今回、モビリティ領域におけるAI開発に強みを持ち、東南アジアを中心にグローバルにビジネスを展開するTangerine社と提携・出資することとしました。

2. Tangerine社の概要

Tangerine社は、開発拠点であるバンガロール（インド）にインド工科大学を卒業した優秀な技術者を多く抱えています。また、AI開発だけではなく、ハードウェア設計からデータ分析プラットフォーム・アプリケーション開発に至るまでの一連の開発体制を有しており、顧客のニーズに対して最適なサービスを迅速に提供できることを強みとしています。

例として、企業が保有する車両向けに、デバイスから取得した走行データや映像をAIにより分析し、事故削減やエコドライブのアドバイスを行うサービスを展開しております。

【Tangerine社 概要】

会社名	Tangerine Innovation Holding Inc.
拠点	シンガポール、パロアルト（米）、ニュージャージー（米）、バンガロール（インド） 登記：米国デラウェア州
設立年月	2017年12月11日
創業者	Kaushik Thakkar氏（米/パロアルト）、Sunija Rishi氏（シンガポール/バンガロール）
会長	Arun Kant氏（CEO, Leonie Hill Capital）
主な事業内容	モビリティ領域におけるAIソリューション・データプラットフォームの提供 ・ドライブレコーダー・センサー等ハードウェアの設計 ・データ分析プラットフォームの開発 ・モビリティ企業向けAIソリューションの提供

3. 今後の展開

今後、当社はTangerine社をモビリティ領域のパートナーの一つとして、AIを活用したサービスの研究開発を進めていきます。また、近い将来、自動運転車に搭載されるセンサーや高精度カメラから膨大な映像データが得られると推測される中、AIを活用した事故検知のニーズはさらに高まると思われます。当社は自動運転社会を見据え、Tangerine社と共に培うAIノウハウを最大限活用し、「安全・安心」なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。



主に貢献しているSDGs目標

